

平成27年度 学校評価実施報告書

3 2回目評価

学校名(京都市立梅津中学校)

重点評価項目について評価・改善していくための個別評価項目の設定 ・各項目にわらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定						自己評価		学校関係者評価	
・アンケート実施結果、その他指標の結果について整理						評価日	平成28年2月18・25日	評価日	平成28年3月25日
						評価者・組織	全職員	評価者(いずれかに○)	○学校運営協議会 学校評議員
分野	評価項目	自校の取組	アンケート項目・各種指標	アンケート結果・各種指標結果		分析 (成果と課題)	自己評価に 対する改善策	学校関係者評価に よる意見	学校運営協議会・学校 評議員による改善 に向けた支援策
1	確かな学力	授業改善によるわかる授業の創造 家庭学習の習慣化 授業規範の確立	校内研究授業/協同学習の研究推進/校外研修への積極的参加/小「自学自習のすすめ」作成と家庭配布/宿題の増量/自主性の育成	アンケート「学校の授業はわかりやすいか」/学習確認プログラムの結果 アンケート「宿題はできている・家庭学習には毎日取り組んでいる」 ベル着や授業改善への取組結果/アンケート「学校のルール守って	保護者からの評価は向上しているが、まだ数値には現れていない。 家庭学習時間は平均よりかなり低い。スマホ等の使用時間が長い。 ベル着違反・エスケープや授業妨害や授業中のトラブルは減った。	⇒	前年度より遅刻・ベル着違反やエスケープは減り、落ち着いて授業に臨める状況である。協働学習を取り入れるなど授業の工夫を進め、全員参加の授業づくりを目指しているが、家庭での学習習慣や家庭の支援が不足し基礎学力の課題がある。	⇒	生徒が学習を自らの意思で進める力を持つ必要がある。学習の意義や目的を、将来の自身のキャリアにどう生きるのか、社会のどのような役に立つのか、理解させる取組を構築する。更にに途上の授業改善を、研修を深めながら進める必要がある。
2	豊かな心	いじめが起きない学級集団づくり 「いいことばの日」への理解と定着 道徳教育の充実	学級経営力向上/クラマネの活用/梅津の志徹底/いじめ防止基本方針の 毎月15日の生徒会の呼びかけとそれに呼応する担任の働きかけ 学年道徳・交流道徳・全校道徳等の実施と振り返り/校内研修会	アンケート「いじめはいじめない・悪いことは悪いといえる」 終学活の振り返り/アンケート「友達は優しい言葉をかけ助けてくれる」 道徳学習シートの点検/アンケート「自分にはいいところがある」	学校へ楽しく登校している生徒の割合は平均以上である。 「仲のよい友だちがいる」生徒は96.3%である。ここ数年同じような道徳授業後の評価や約束・ルールを守っている生徒は増えてい	⇒	「いじめは絶対にいけない」というアンケートで、全員「はい」とならない。学級指導や道徳指導などで、何が足りないのか分析が必要。「いいことばの日」は取組の効果が現れ、学年や学校の集団としての力は付いてきているのではない	⇒	言葉・約束・仲間を大切に「梅津の志」の唱和を増やし、徹底のための取組を生徒会で検討する。また本校の目指す生徒像に、梅津の志の精神をそのまま取り入れ、本校全ての教育活動を通して、豊かな心を身に付けた生徒の育成を目指す。
3	健やかな体	基本的生活習慣の確立 体力・運動能力の向上	生活習慣アンケート/朝食とらうげキャンペーン/遅刻・ベル着についての 体育授業の充実/部活指導の充実と支援体制づくり	アンケート(朝食は毎日とる)・就寝時間と起床時間調査 体育授業の評価/部活に関するアンケート/公式戦の結果	不規則な生活習慣や朝食をとらない生徒の多さは改善されてい 授業や部活での怪我が減り、部活動で結果も出てきた。	⇒	走る・跳ぶ・投げる・捕るなどの基本的な経験や技能はもっと必要であるが、体育や体育系の部活には前向きに楽しく参加しているので、今後の伸びは期待	⇒	不規則な生活習慣や朝食をとらない生徒の割合が多いデータは、保護者や地域へ返す必要があるのではない
4	独自の取組	小中一貫教育の推進 愛校心の育成 情報発信の充実	夏季小中合同研修会/小中交流会/小中合同研究授業・研究協議会 集会の工夫/梅津の志の唱和/校歌を歌う/体育大会・文化祭の工夫 積極的なホームページの活用/ホームページの活用/学級・学校だより	小中合同研修会後の職員アンケート・学習確認プログラム アンケート「梅津中を誇りに思う・他の学校とは違う特色がある」 学校ホームページのアクセス数・保護者や地域の皆様からの意見	年3回の小中合同研修会は充実している。 初めて聞いた「梅津中を誇りに思うか」は86.2%がはいと答えた。 HPアクセス数、通信類を通した連絡についての評価も横ばい。	⇒	小中3校の教職員の交流は進み、互いにいい刺激を与え合っている。梅津全体としての共通した取組も増え、本校に限らず、梅津出身との誇りや愛校心は育ってきているのではないと思われる。学校HPは更に細かな更新と充実が必要	⇒	小中連携した取組の中身の充実を図る必要がある。小中の教職員が互いに意見を言い合える雰囲気がある。梅津小学校を幹事校としたOJTの取組も検討中である。学校HPは校長・教頭の手による更新から、各学年に担当をくことで、充実が図れる

4 総括・次年度の課題

- 地域の中で中学生が地域の皆様と友に活躍する場面づくりが、梅津全体の発展のために効果があるのではない。具体的な取組を検討する。
- 学校評価アンケートの項目の整理を行い、生徒の意見と保護者の意見を対比しやすとしたので、今後経年変化も含めて、分析しやすくなった。
- 学校の教育活動や各種アンケート調査からわかる課題については、各家庭・地域への発信方法の工夫が必要。
- 今後も小中連携し、共通の課題はともに解決を目指す必要がある。
- いわゆる「中1ギャップ」のない梅津をこれからも継続するため、生徒と児童の交流を深めていく。